

○目次

まえがき	… 3
序論	… 13

第1章 基本的な選択 … 25

1・1 実現可能な目標をたてるためにも「汝、おのれを知れ」	… 26
1・2 性格や才能に見合った目標をたてよう	… 36
1・3 研究スタイルを選ぼう…一匹狼か協調型か、チームの一員かリーダーか、 α 型研究者か β 型研究者か	… 39
1・4 研究の雰囲気を選ぶ	… 48
1・5 研究の基本スタイル…実験重視か理論重視か	… 49

第2章 基本戦略と行動 … 59

2・1 仕事と生活、パートナーがいる場合	… 60
2・2 大学(博士課程、ポスドク、教員)の選び方	… 61
2・3 なぜ、ポスドクで修行するのか	… 68
2・4 最初のキャリア選択…学位論文の指導教員は、若手と年長のどっちがいい?	… 75

- 2・5 助言者は、なるべく早く見つける … 82
- 2・6 共同研究者を選ぶ … 84
- 2・7 成功に結びつく性格 … 87
- 2・8 コントロールできる特質…仕事は整然と進めること／研究には厳格であること／期限は厳守すること … 89
- 2・9 我慢も大切、あるいは我慢のしどころをわきまえること … 95
- 2・10 主張すべきは主張せよ … 98
- 2・11 勝ち目がなくても闘うこと(競技に参加せずに勝つことはできない) … 99
- 2・12 成功が成功を生む … 105
- 2・13 ヨーロッパ対北米 … 107
- 2・14 アジアで仕事をするということ(フェデリコの経験から) … 111
- 2・15 頭脳流入対頭脳流出 … 115
- 2・16 英語以外の言語も役に立つ … 119
- 2・17 最新の状況を把握する … 121

第3章 科学というゲーム … 127

- 3・1 生態系としての科学 … 128
- 3・2 査読の仕組み … 135
- 3・3 科学の倫理 … 150

第4章 名声を獲得して、利用する … 177

- 3・4 倫理がないがしろにされるとき … 156
- 3・5 知的財産権と特許 … 162
- 3・6 ジェンダーに関して機会均等な雇用 … 167
- 4・1 自分の研究を人に知ってもらう … 178
- 4・2 論文発表…なぜ発表するのか、どの雑誌に発表するのか … 179
- 4・3 学会…どんな風に役立つのか … 189
- 4・4 セミナー…セミナーは、どう役に立つのか … 205
- 4・5 人事に関する面接 … 207
- 4・6 研究の予算を確保する … 221
- 4・7 情報が不可欠! … 238

第5章 自分の科学研究をどう伝えるか … 243

- 5・1 科学とライティング…総論 … 246
- 5・2 査読のある発表 … 253
- 5・3 博士論文 … 276
- 5・4 履歴書 … 287
- 5・5 口頭発表とその構成 … 298

第6章 ポスターのデザインとプレゼンテーション …… 307
教訓物語 …… 313

- 6・1 日本での夏 …… 314
- 6・2 R君の修士論文での悲惨きわまりない経験 …… 316
- 6・3 T君のケース…自信のなさや頑固さは、命取りになりかねない …… 318
- 6・4 Mさんのケース…気乗りのしない選択は賢明とはいえない …… 321
- 6・5 R君の博士課程での経験 …… 322
- 6・6 R君のポストドクでの経験 …… 325
- 6・7 キャリアの新しいかたち…枠にはまらない発想 …… 329

第7章 **エンブォイ…終わりに …… 337**

- 文献紹介(本文中に出てきた文献を含む) …… 341
- 用語集 …… 342
- 研究助成団体と略称 …… 344
- 学協会 …… 347
- 参考文献 …… 348
- 記者あとかぎ …… 350